

令和3年度第1回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和3年4月8日（木）18：00～19：30

【場 所】 浜益支所旧議場

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 令和3年度採用浜益区地域おこし協力隊のご紹介
- 3) 令和3年度浜益支所体制について
- 4) 令和2年度地域自治区振興事業の実績について
- 5) 令和3年度主要事業の概要について
- 6) 浜益の教育環境を考えるワークショップ（チラシ）・説明資料

【出席者】 8名（14名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	佐藤 晃一		委員	水崎 理	○
副会長	渡邊 隆之	○	委員	阿部 ゆかり		委員	寺山 広司	○
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸		委員	門脇 弥	○
委員	久慈 貞子		委員	赤間 香子		委員	羽立 裕子	○
委員	鳴海 翔	○	委員	渡邊 真奈美	○			

- （支 所） 畠中支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）
宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）
- （本 庁） 企画経済部企画課 中西次長
- （事務局） 佐々木地域振興課長、柿崎主査
（地域おこし協力隊） 高橋隊員、井上隊員

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - ① 令和3年度浜益支所体制について
 - ② 令和2年度地域自治区振興事業の実績について
 - ③ 令和3年度主要事業の概要について
- 4 協議事項
 - ① （仮称）教育環境を考えるワークショップの開催について
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

2 会長あいさつ

【宮田会長】

4月に入り雪解けが一気に進み、人の動きも激しくなってきたように思います。

区内の学校ではそれぞれ入学式を終え、浜益小学校には6名の新一年生が、浜益中学校には2名の新入生が入学しております。

8名の子供達のこれからに心からエールを贈りたいと思います。

今日の会議であります、まず、地域おこし協力隊についてです。

先般、市役所での面接を経て採用が決定し、4月1日付けで高橋睦さんが着任しております。高橋さんは昭和34年生まれの61歳で北海道大学農学部を卒業されております。主に農業分野のプロパーとして神奈川県庁、北海道庁で勤務されてきております。

高橋さんには早く浜益の生活に慣れていただき、豊富な知識と経験を活かした活躍を期待しております。

そして会議が新年度1回目ということもあり、支所より何点かの報告を受け、その後、開催がのびのびとなっていた「移住・定住に向けたワークショップ」についてあらためて相談させていただきたいと思います。

ちょうど市議会定例会において市長、市教育長より「浜益の子供たちの教育環境向上に関する方針」が示され、2月の会議において当協議会としても積極的に関わっていくことを確認したところであります。

浜益の子供たちのための新たな構想が市より示されたことに感謝と敬意を表するとともに、多くの区民の賛同のもと実現に向けた作業がスムーズに進められるよう、当協議会としてできる限りの役割を果たしてまいりたいと考えています。

その第一歩として、「教育環境を考える」をテーマとしたワークショップを近日中に開催したいと考えております。

残念ながら、生徒数は年々減っていきます。浜益中学校も4月から1・2学年が複式となって新たにスタートいたしました。

「13名の生徒を13名の教職員が育てる学校がスタートする」と浜益中学校のホームページに載っております。

浜益で生まれ育ってゆく子供達のために浜益らしい特色ある教育環境の構築をめざして、教職員や地域の皆様と共に取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

【事務局】

本日の会議出席人数が過半数に達し成立していることを報告します。

会議に入る前に、今月1日付けで着任しました浜益区の新しい地域おこし協力隊、高橋睦さんをご紹介します。

略歴紹介 ～資料参照～

【高橋隊員】

ただいま紹介いただいた高橋です。色々な仕事をしてきましたが、主に農業の面では果樹野菜、果樹が長かったんですが、体に良いもの機能性のあるものを中心に携わってきました。そのあと新規就農をめざして退職したのですが、農地の取得がうまく行かなくて色々な仕事をさせていただき、健康に役立つスポーツ関係の仕事を楽しくやらせていただきました。

農業でもスポーツでも体に良い、健康に役立つ仕事をしたいという事でそれをモットーに、浜益のなかでやって行ければと思っています。皆さんよろしくお願いします。

3 報告事項

(1) 令和3年度浜益支所体制について

【畠中支所長】

昨年と比べて大きく変わるところはありません。退職者も再任用で残られる方もおりましたし、別な仕事をする方もおります。また、本庁から1名赴任されております。兼務などもおりますが総勢

32名で1年間進めていきますのでよろしくお願いします。

(2) 令和2年度地域自治区振興事業の実績について

【事務局】

地域づくり振興基金は平成17年度に1億円を基金として積み立て各年度協議会の承認を得ながら様々な活動が行われております。

令和2年度の活動実績ですが、業内容の概略を簡単に説明します。

区民カレンダーはこれまで昔懐かしの写真を掲載してきましたが、令和3年度分からは昨年イベントや記憶に残りそうな写真を掲載しました。

あわせてカラー印刷に変更しました。

いっぺかだれやヘルシーウォークはコロナで中止しました。

水産物普及プロジェクトは朝市が中止、さらに港まつりも区民限定のサマーイベントとして変更し実施しています。コロナ禍何かできないかと漁業青年部で知恵を絞り、オンラインショップの開店など新しい動き出しが始まった年でもあります。

増毛山道トレッキングはコロナで中止や参加人数の抑制などをしながら実施しました。

浜益フットパスウォークも例にもれず5月はコロナで中止しましたが、夏と秋は開催することができ、住民と話しながら歩いて地域も知ることができて大変良かったと好評を得ています。ヘルシーウォークから発展系のイベントとして定着をめざします。

(3) 主要事業の概要について

【事務局】

前回の協議会で説明しましたので、新規事業のみ紹介します。

浜益支所庁舎非常用自家発電設備整備事業については基金事業ではありませんが、72時間の発電が行えるように設備を更新するための実施設計費用です。

ワーケーション事業については旧カフェガールを活用しテレワークができる施設として活用するためIT企業とエゾロックと市の共同で実施する事業です。

1週間ほど浜益に滞在して会社の仕事をしてもらいながら、休日には体験農業などを通じて、ITでの解決の提案をってもらうなどの取り組みを行う予定です。

6月から11月に1週間程度の滞在で複数回来訪してもらう予定ですが、地域の人々の魅力や地域の産業も取り入れながら、浜益らしさを発揮し次年度以降の継続的な展開を目指します。

浜益150年記念事業については、コミュニティセンターきらり隣接地に遊具を設置するほか、オープニングセレモニーを実施する予定です。

なお、これまで地域自治区振興事業として計上していた増毛山道トレッキング事業については、支所の基金事業ではなく、本庁の地方創生推進事業で実施することとなっております。

4 協議事項

(1) (仮称)教育環境を考えるワークショップの開催について

【事務局】

2月の地域協議会でお知らせしましたが、定例市議会で「乳幼児から義務教育段階の子育て環境についてより良い方向性を見出せるように検討に着手する。それから教育環境のあり方について検討を始める」という事があり、それを受けまして地域協議会としましても、地域が一体となって子供たちの教育環境向上のため検討を進めるということを確認しました。

さらには危機感を持って取り組むということを確認しました。

この中で特に地域が一体となった取り組みとして、我々が考えているのは地域協議会、市・保育園父母の会、学校で言うと教育委員会、PTA、学校の皆さん、ほかの色々な団体。それぞれの団体が連携して検討を進め、その中心としては4月に立ち上がる予定の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が担っていただいて、浜益の教育環境を考える、地域が一体となって進めて行ければと考えています。

具体的にはロードマップ（案）のとおりとなっております。

今日、教育環境を考えるワークショップの開催を決定していただけたら、早速4月25日に区民のみなさんに参加していただいて、意見交換会を実施したいと考えております。

その前段では、今週末が中学校、来週末が小学校のPTA総会などがありますので、支所長並びに担当課長が行きまして主旨説明をさせていただきますので、4月25日に皆さんお集まりいただきたいと思っております。

そこで出た意見を踏まえて、学校運営協議会で出された意見を集約して、検討結果を秋ぐらいに浜益らしい教育の在り方というのを区民のみなさんにお知らせして、それで進めましょうと確認できればと考えています。

資料の中で基本計画というのがありますが、実際に具体化していくには予算化、基本計画、実施設計などあるのですがそのようにつながっていければと思っております。

一番大事なところは、地域が一体となって議論を進めていきたいというところです。

内容としてはまず、市の教育部局、保育部局として、こういうことが望ましいんじゃないかという情報を提供していただきます。それに対して集まっていた区民の皆さんでざっくばらんに意見交換をしていただきます。

当日は色々な意見を集約はせず、そのまま学校運営協議会の方へ引き継いでいき、そこで議論をしてもらう、そのような会にしたいと考えております。

ワークショップの会議の進行役ですが、昨年7月の地域協議会にも来ていただいた、元中学校の川村先生にやっていただきまして、皆さんの色々な意見をお聞きする場にしたいと考えております。

2月の地域協議会を受け、スピード感を持ってこのテーマに取り組んでいく第一歩としてこのワークショップを手始めにやりたいということで、協議事項として提案させていただきました。

【宮田会長】

どうでしょうか？去年の7月から浜中の生徒が減るということで課題が提供されまして色々話し合ってきました。途中からは移住・定住についてということでワークショップを行っては何となく進めて来ました。

それが延び延びとなっております、突き詰めてみますと今説明があったような子供達の教育環境を整える。ここに集約されることが一番いいのではと私は考えておりました。

【寺山委員】

ワークショップをやることによって子供たちの教育環境とか育て方だとか色々あると思いますが、我々が今ここで意見を言ったことについて、ワークショップをやるという事ですか？

【事務局】

こういう会議をキックオフにして、この検討を進めていきたい。地域協議会の皆さんに承認いただきたいという趣旨です。

ワークショップの主催も地域協議会ということで始め、教育部局やほかの部署も巻き込みながら進めていくこととなります。

進めていくうえで、市の考えや子供の推移など、わからない方もいらっしゃるもので、そういう話しをしてもらいながら「浜益の教育環境というのはどういうのが望ましいのか」「そうすることによってどのようなメリットがあるのか」とか、義務教育学校の事例紹介などをしたいと思っております。

さらに0歳児保育。これも受入れ可能な施設を併設することによって、こういう相乗効果もあるのでという市の考えも話していただけたらいいと思っております。

それを受けて参加されたみなさんが、どんどん進めるべきとか、そうすることによってこういう不安があるんじゃないかなど、たくさん意見を出していただいて、次のステップにつなげていきたいと考えています。

【宮田会長】

イメージとしては厚田の小中学校。それから乳幼児ですか？一緒になった厚田学園ができましたけれども、同じにはいかないですが、浜益区内の小中学校と保育園を統合した形で進めるには、区民の合意

が必要です。

区民の圧倒的な賛成があればこの計画もスムーズに進めていけるのではないかと考えております。

その手始めとしてワークショップを開催したい。

学校の現状、保育所の現状、そしてその他の浜益の現状などもあれば含めて今後について色々な意見が出されれば、最終的には賛同が得られるのではと期待を持っております。

【渡邊（隆）】

生徒数が少なくなっている現状を見たときに、より良い教育環境を与えるといえますか、地域の人が一緒になって考えていくことが大事だと思います。

そういったことからワークショップの開催、あるいはこれからのより良い環境を目指しての考えといえますか、そういったことは必要なことだと考えますので、私は大賛成です。

【寺山委員】

いくら過疎が進んだ浜益でも、子供がゼロになることはあり得ない、一次産業なり地域の方が絶対生活していますので、先ほど会長が言った厚田学園ほどいなくても校舎はやっぱり条件をクリアしたところに絶対必要だと私は感じているので、0歳児保育ですとか全部網羅した中で義務教育課程のできる校舎をできれば設置してもらいたいと思います。我々の望みでもあるし希望です。是非そういうハードの部分も含めてやってほしいと思います。

【渡邊（真）】

ワークショップ開催はすごく良いことだと思う。

お母さん方もすごく興味があると思うんですが、これに参加したくても小さい子がいると中々参加できない。時期的にもおじいちゃん、おばあちゃん達も忙しくなっているので、預けられないから参加できない人が出てくると思うのですが、託児とかは考えていませんか？

【事務局】

検討させてください。

【渡邊（真）】

託児があるとお母さんたちも参加できる人が増えると思う。

まさにそういう人の話を聞きたいわけですよね？

どうか検討をお願いします。

【水崎委員】

私も事あるごとに「保護者地域の皆様」と言います。それは社交辞令ではなくてほんとに今できるチャンスかなと思います。

学校や行政が上からというよりも、ボトムアップで保護者の声で市役所を動かすというのが浜益として一体化してできればいいなと思います。

今の時代やはり子供を9年間かけて育てるといえる時代です。浜益ならさらに保育園からということで、浜益の宝である子どもを育てるという意味では、ほんとうに今、保護者と地域の皆さんが話し合う機会をもって、それを総意として市議会ですとか、本庁の方へあげるといのが望ましいのではないかと思います。

地域の皆さんの生の声を聞くチャンスだと思います。

実は去年の秋に修学旅行の報告ですとか本校の縮小化の話をする機会を設定していただいたのですが、コロナの関係でできなくなりましたので、今回のこういう場は貴重なことだと思います。よろしくをお願いします。

【門脇委員】

ワークショップに参加できないかもしれないので、今から要望を伝えておきます。

今の中学校の校舎も結構もう古いですよ？それであれば一番上にしっかりとしたものを作って今の校舎のところをグラウンドにするとか、それが手っ取り早いのではと。そこに投資する。道の駅もない、何もなし、せめて学校を良くしようという流れにする。

中途半端にリフォームしても結局また老朽化が来るのだから、それであれば立て替えた方が後腐れな

いと思う。

まずは行けなかった時の要望として伝えておきます。

【宮田会長】

4月25日のワークショップが第1報として予定していますが、コミュニティスクールの会議等でも一般の区民の意見を聞く場が何度か出てくると思います。

そして回を重ねていくごとに事業が具体化されてくると思いますので、その中で色々な意見を反映させていきたいと考えております。

ちょうど私達が地域の今後を考えていた時に市の方で教育環境を考える提案がなされたという事は本当にチャンスかと思えます。

そのためにも区民から合意を得る事が第1歩ですので、このワークショップを機会に広く区民に学校の状況等を知っていただいて将来の事業の実現に向けた合意形成にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

羽立委員、何かご質問ございませんか？

【羽立委員】

農家も時期的に忙しい時期で、私も北海道にいないのでちょっと残念ですけど欠席させていただきます。

【宮田会長】

それでは事務局提案のとおりワークショップを進めさせていただきます。

後日、回覧等配布されると思いますので、皆様のご参加をお願いします。

また、家族やお近くにお住まいの方にも声をかけていただければと思います。

5. その他

【井上協力隊】

協力隊の井上です。

本日はこの場をお借りして2泊3日で実施した「おためし地域おこし協力隊」の取り組みと、札幌の児童がイチイの木へ行く「浜益探検」の取り組みについてご報告をさせていただきます。

おためし地域おこし協力隊というのは地域おこし協力隊として活動する前に2泊3日など一定期間地域の活動に参加して、受け入れ地域とマッチングを行うことを目的として創設された制度になります。今回は3月8日から10日までの3日間実施し、6名の大学生が参加しております。

1日目は午後からはじまり、道の駅あいろんど厚田で「地域おこし協力隊活動報告パネル展」を実施しております。そのパネルを使用し1年間の活動内容や協力隊の制度、浜益の魅力や特産品などについてプレゼンしました。

その後、浜益支所に移動し佐々木課長から地域の概要や浜益の地域資源や魅力、課題などについて説明を受けました。

2日目は朝から総幸丸水産にお世話になり、ホタテの荷揚げから出荷までの一連の流れを見学させていただきました。その際には漁協青年部の徳地さんに説明をしていただきまして、ホタテの出荷先や、区内で無料配布を行っている話やその仕組みなどについて詳しくお話をお聞きしました。

そのあと松丸水産さんにお世話になりまして、ニシンの網外し体験をさせていただきました。

外し方のコツですとか雄雌の見分け方などを学ぶなど就労体験をさせていただきました。

午後からは木村果樹園で剪定した枝拾いを行いました。

枝を拾いながら浜益の果樹の歴史や害獣動物についてなど木村さんの豊富な知識をお聞きし、参加した方も積極的に質問していました。

夜は浜益支所で「集落の教科書」という取り組みを行いました。これは良いことそうでないこともしっかり伝えたいというのをコンセプトとした移住者向けのガイドブックになります。

詳しくはネットで検索すると全ての教科書が載っているので是非見ていただきたいんですが、こちらを作っているNPO法人の方をオンラインで呼び出し、作った時の背景を聞きました。

この集落の教科書には葬儀の相場や町内会費など本当に細かいことまで記載しているものになります。プレゼンの時には移住者に対してどういったことを伝えたいのか、逆に移住してくる人の立場になったとき、どんなことが知りたいのかを議論しました。

3日目の朝は黄金山の樹齢1500年のイチイの木を目指してスノーシューを履いてガイドツアーを行いました。このガイドを行ったのはこちらの地域協議会にも参加したことのある樹木医の崎川さんです。木に関してかなり豊富な知識をお持ちなので、途中で木の特徴など色々なことを教えていただきました。

時間が無く合間になるのですが、陣屋の前で雪板体験を行いまして少しずつコツをつかんだところで雪板体験は終わりました。

3日間の締めくくりとしまして、滞在拠点でもある浜益ベースでこの3日間で印象的だったことや滞在している時にこんな事やってみたいとか、改善したいことなどアイデアのブレインストーミングを行いました。

実際に印象的だったこととして出てきたのは、木村果樹園の上から見た景色や3日間で農業・水産業そして山にも行けて浜益の魅力を知ることができたなど意見が聞かれました。

このプログラムをきっかけに次の浜益探検にもボランティアで参加してくれた方も出てきて浜益に対して魅力を感じてもらえる内容だったのではと思います。

次に浜益探検の説明に移ります。

こちらは3月27日に札幌の小学生がスノーシューを履いてイチイを訪れるというもので、札幌の児童館運営を行っている公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会さんの主催で行いました。

当日は小学生17名が参加しまして、5つのグループに分かれて歩いていく流れになります。

5名ほど大学生がボランティアで参加しており、各グループのリーダーとして子供達と一緒に歩いていくという内容になります。

実際にイチイの木を目にした子供たちですが、大きさを測るために輪になって手をつないだり、大きさに驚いていたりしていました。

帰り道は事前に作成したスタンプカードを使って、白樺の木を見つけようですとか動物を見つけようですとかそういったものを探しながら下山しました。

子供達が普段歩くような距離ではないので疲れてはいましたが、終始楽しそうな感じでした。

最後に感想を共有する時間がありまして、イチイの木がすごかったですとか、また浜益に来て登りたいですとか、今すぐ登りたいといった声も聞かれて結構楽しそうにしていました。

足早ですが私からの報告は以上になります。

【鳴海委員】

漁協青年部から朝市についてご報告します。

去年コロナの影響で朝市が中止になりましたが、今年は規模を縮小して実施します。

内容については、抽選会とチャリティー浜鍋、バーベキューコーナー、豊漁太鼓を中止します。

日程は5月2日、9日、16日、23日の4日間を予定していますのでよろしくお願いします。

【宮田会長】

皆さん是非足を運んでいただきたいと思います。

【事務局】

2点ほどお知らせします。

1点目は新過疎計画についてです。

今年新たな過疎対策法が制定されたことに伴いまして、新しい過疎計画というものを策定することとなりました。この計画案の検討にあたりましては、この地域協会からご意見を伺うこととなりますので、あらかじめお知らせいたします。

詳細につきましては次回以降の協議会で説明させていただく予定となっております。

2点目はお手元にショップカードを配布しております。旧適沢コミセン、カフェガルとして活用していた施設の利活用についてです。今月下旬から旧適沢コミセン、カフェガルの有効活用の一つとして「カフェスト」という名称で喫茶コーナーがオープンすることとなりました。

経営者は以前からご紹介させていただいている加藤さんです。

プレオープンは4月23日（金）、グランドオープンは4月25日（日）、先ほどのワーケーションの日とのことです。金、土、日、祝日のみの営業とのことで、コーヒーですとか紅茶、浜益の果物ジャムを使用したミルクプリンなどを提供したいとのことです。お時間がありましたらお気軽にご利用いただければと思います。

【宮田会長】

新過疎計画について本協議会で協議していくことになると思いますが、新過疎計画の目的ですとか役所の方はいつも使っているからわかると思うのですが、委員の方は詳しくわからないと思うんですね。どんな目的なのかどんなメリットがあるのかわからないと思います。

協議の際には簡単で結構ですのでわかりやすく教えていただければ、今後の参考になると思いますのでよろしくお願いします。

6 次回の開催日程について

【事務局】

次回ですが、ワークショップ開催の結果報告や新過疎計画の情報提供を予定しております、5月下旬を目途に調整させていただきたいと考えております。

詳しい日程は後日改めてお知らせさせていただきます。

7 閉 会

令和3年4月13日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉